

大阪・玉櫛遺跡 たまぐし

1 所在地 大阪府茨木市玉櫛二丁目

2 調査期間 一九九五年度調査 一九九五年（平7）六月～一九九六年三月

3 発掘機関 (財)大阪府文化財調査研究センター

4 調査担当者 入江正則・川瀬貴子・木村建明

5 遺跡の種類 集落跡・水田跡

6 遺跡の年代 弥生時代後期～古墳時代、平安時代（二〇世紀後半）～中世（一五世紀）、近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東北部)

玉櫛遺跡は大阪府の北部、茨木川と安威川により形成された沖積地に位置する。標高六・五m前後、対岸には銅鐸鑄型の出土で有名な東奈良遺跡がある。

一九九一・九二年度、大阪府教育委員会が府営住宅建て替えに際して、約五〇

〇〇㎡を発掘調査した。その結果、古墳時代から近世までの水田・畑・河川・集落を検出し、玉櫛遺跡と命名した。一九九五年度から大阪府教育委員会の委託を受けて当センターが行なった調査では、平安時代前半から中世（一〇世紀後半～一五世紀）にいたる水田・集落・河川などを検出した。集落は数時期に分かれ、規模の大きい建物と小さい建物数棟で構成される。集落は場所を変えつつも連続しており、一五世紀には堀と呼べる規模の河川で区画され、出土遺物にも輸入陶磁などを多く含むことから、在地領主層の集落跡と考えられる。

木簡は三点出土した。(1)は畦畔が検出され、調査区で最古の水田面となる、一〇世紀後半から一一世紀前半までの耕作土層から出土した付札木簡である。他の二点は卒塔婆で、(2)は集落を区画する一五世紀の河川から出土した。この河川の同じ堆積層からは、五輪塔の水輪部も出土し、また河川岸には桶棺墓も検出されており、周辺一帯が墓域であったと想定される。(3)は集落内の一四世紀後半と推定される井戸から出土した。

8 木簡の釈文・内容

水田耕作土層

(1) 〔V□□□一石〕

145×21×8 033

河川

- (2) 「梵字」南无阿弥陀佛右趣者为性 三七日追善×
(460)×56×3.5 061
井戸

- (3) 「南无□□□□□」 328×24×3 061

(1)は上に二、三文字あるが判読できない。裏面は墨痕なし。下端を削り尖らせる。(2)は下端部欠損、裏面は墨痕なし。頭部に五輪塔状の切り込みが入り、左右も薄く削る。為性という人物の三七日追善供養の卒塔婆とわかる。(3)は「南无」以下にも文字があるが、肉眼では判読不能だが、吹田市教育委員会西本安秀氏の指摘では「南无多宝如来」という(同「木製卒塔婆の変遷と用途に関する一考察」『網

干善教先生古稀記念考古学論集 下巻』一九九八年)。頭部に山形の切り込みがあり、先端も鋭く尖らせる。

9 関係文献

(財)大阪府文化財調査研究センター『玉櫛遺跡』(一九九八年)

(川瀬貴子)

